

<新たな生涯学習施設の基本的なコンセプト>

『つなぎ・育む』情報・文化・交流の拠点

多世代交流拠点

子どもから高齢者まで、地域の多様な人々が集い、学びや体験を通じて、お互いにつながりながら、人と地域がともに育まれる場とします。

<基本計画（案）P19の5>

新たに整備する生涯学習施設は、基本構想において従来の公民館や図書館の利用者に加え、子どもや子育て世代をターゲットとともに、多世代が利用し交流する施設を整備することが目的とされており、施設設計においては、利用者が長時間快適に過ごせるよう、広くゆとりを感じられる空間を確保することが求められています。建物内部は、来館者が快適に過ごせるよう、ゆったりとした空間とともに、屋外には子どもたちが自由に遊べる遊具施設を設けた広場や、多様な人々の交流を促進するための交流スペースの整備を検討しており、そのため、広さに余裕のある敷地が求められます。公共交通機関としては、デマンドタクシーの活用を想定していますが、大多数の施設利用者は市内各地から自家用車で来館することが見込まれるため、幹線道路からのアクセスが容易で、まとまった台数の駐車場が確保できることが条件となります。

※このイメージ図は、諸室機能を検討するために作成された機能検討図を基にしており、今後の設計段階において、具体的な諸室の検討を効果的かつ効率的に行うための参考とするものです。

- 育む
 - 集まる・つなぐ
 - 学ぶ
 - つくる
- ※基本構想 P8 基本方針より

